

第6回 恵庭市公園のあり方等検討委員会 議事録

日時：令和 8 年 1 月 26 日（月）13:30～15:00

場所：恵庭市役所 第2庁舎 2階 大会議室・中会議室

1. 委員（敬称略）

椎野 亜紀夫：札幌市立大学 デザイン学部教授（デザイン学部長）＜オンライン参加＞

小磯 修二：北海道文教大学 地域創造研究センター長

富永 一夫：一般財団法人 地域活性化センター フェロー ＜オンライン参加＞

黒崎 暁子：樹木医

東庄 儀幸：恵庭市造園業組合（株式会社園建 取締役社長）

北 林 優：恵庭市町内会連合会 会長

栗原 和己：公園指定管理者（恵庭まちづくり協同組合）

平 井 梓：認定NPO法人まちづくりスポット恵み野

2. オブザーバー（敬称略）

下出 大介：国土交通省 都市局 公園緑地・景観課 公園利用推進官 ＜欠席＞

3. 事務局

今野 朋幸：恵庭市 建設部 部長

林 辰徳：恵庭市 建設部 管理課 主幹

北岡 嵩浩：恵庭市 建設部 管理課 主査

今野 哲太：恵庭市 建設部 管理課 主任技師

4. 傍聴者

3名

議事要旨

I. 開会

13:30~13:35

<第6回恵庭市公園のあり方等検討委員会>

- 本委員会は、恵庭市情報公開条例第23条および同条例施行規則第14条の規定により公開で開催
- 本日の委員会は、委員8名全員が出席（2分の1以上が出席）、恵庭市公園のあり方等検討委員会設置要綱第5条第2項の規定により成立

II. 議事・報告

1.第5回委員会（前回）の概要

13:35~13:40

○第5回委員会

開催日時：令和7年11月10日（月） 13：30～16：00

出席：委員7名出席

（東庄委員 欠席、富永委員・下出オブザーバー オンライン参加）

審議内容：試行・調査の結果報告

2.提言書（案）の確認

13:40~14:50

<<事務局説明>>

※ 詳細は「資料2（仮称）公園のあり方に関する提言書（案）」を参照

- タイトル（仮称）としている。提案があれば変更する予定。
- 目次（P.1）について、1章～6章まで、大きく分けて「問題提起」→「検証(試行・調査)」→「提言」という構成にしている。
- 参考資料（P.2）は、委員名簿と委員会開催実績のほかに、試行調査結果について、提言書に記載しきれないものを添付している。
- 1章「はじめに」（P.3）は、恵庭市の公園を"えにわ"ならではの特性を引き出せる重要な公共空間として改めて位置づけ直すことを宣言し、「公園DXの推進」「公園ごとの個性を生かした利用ルールと公園樹のあり方」「公園トイレの統廃合を含めたあり方」という3つの観点から提言を行うことを明示、これから説明することの予告的な要素も含んでいる。
- 2章「提言の背景と目的」（P.4）は、なぜ今、公園のあり方を見直さなければいけないのか、その背景と理由を説明。
- 3章「提言の根拠となる公園の現状と課題」（P.5～P.13）は、具体的に何が問題なのか、データを用いて、5つの項目で整理。
- 4章「試行・調査から見えたポイント」（P.14～P.25）は、3章で明らかになった課題に対して、試行・調査の結果をそれぞれ報告。現場で実際に試して、データを取り、効果を確認できたことが、この提言書の大きな強みとなっている。
- 5章「提言」（P.26～P.27）は、3つの観点 ①公園DXの推進 ②公園ごとの個性を活かした利用ルールと公園樹のあり方 ③公園トイレの統廃合を含めたあり方 から提言している。
- 6章「おわりに」（P.28）は、えにわの公園が「量」から「質」へ転換し、市民・企業・行政が協働しながら公園づくりを進めることへの期待を述べている。

<<委員より質問・意見>>

【北林委員】

- ・トイレについて、今後のあり方が重要。提言にあるように方向性を固めていくべき。
- ・公園のトイレはコストがかかる案件であるため、引き続き検討していただきたい。
- ・恵庭市の公園の中で、シンボルとなる公園を作ってはどうか。

【栗原委員】

- ・樹木について、あさひ公園の取組み含め、最近では市役所と指定管理者とで役割分担をして、協力しながら管理できていると実感している。
- ・トイレについて、老朽化の進行を実感しており、夏になると特に臭いが気になる。やはり量より質というキーワードは重要だと思う。

【平井委員】

- ・公園の名前だけ見ても、場所や外観などのイメージがしにくい。
- ・この提言書を誰に読んでもらいたいのかにもよるとは思うが、参考地図を付けるなどの配慮があった方が読みやすいと感じた。

【東庄委員】

- ・公園カルテについては、公園樹の情報も入っているのか。
(→公園樹木台帳を指定管理者で作成、公園カルテにはそのデータも含まれている。栗原委員)
- ・樹木のデータがあるのであれば、1~2年後ではなく、20年後を見据えた維持管理計画を検討してみても良いのでは。
- ・ネーミングライツについて、企業の中には、CSR活動などを大事にしている会社がたくさんあるので、もっと大々的な募集や周知をすることで協力してくれる業者が見つかるはず。
(→企業価値を高める取り組みを発信していくことは重要と考える。小磯副委員長)

【黒崎委員】

- ・提言書を作った後の取組みが重要であると考え。せっかく提言書を作っても、そこで終わってしまうと意味がない。提言書を出すタイミングで次に何をするのか等、その後の運用を同時に考えて発信していく方が良いと思う。併せて、LINE通報やAIなどの利用が可能となったことについて、市民へアピールすることで、アイデアを持っている市民から意見を引き出すことが可能となり、結果的に担当者の負担も減ると考える。

【富永委員】

- ・ (P.4) 「身近で安心できる場であり続ける」→「豊かで幸せなくらしを実現できる場」のような表現にしてはどうか。
- ・ (P.7) 利用ルールの設定について、1度決めたルールが10年20年後も変わらずに現在も運用されていることで不具合が生じている例も少なくない。求められる価値観が変わってきているということなので「変化に対応できる利用ルール設定」といったような表現をした方が良いのでは。
- ・ (P.15) 公園DXについて、公園のお困りごとにAIが回答するという仕組みづくりであるが、まだまだAIの情報量が少なく未熟。恵庭市内の公園の良さという情報も不足している。この情報を市民から集めてみては。公園に対するポジティブな意見を出してもらい、みんなでこのAIを育てていくような仕組みになれば良いと考えている。
- ・ (P.15) AI回答のトップページに、「この公園の良いところを教えてください！」といったように、ポジティブな意見の受け皿としての活用も検討いただきたい。
- ・ (P.17) 恵庭地区、恵み野地区、島松地区、農村地区、それぞれの地区で公園を集計したときに、多種多様なニーズをそれぞれの地区でカバーできるような個性づけを各公園に行うと良いのでは。例えば、公園と住宅との距離を一定以上確保できる立地の公園では、ボール遊びに特化させた整備をする等。
- ・ “恵庭市の公園が「量」から「質」へ転換し”というニュアンスは良いと思うが、もう少し表現を整理して、“5.提言”の最初のところに、フォントを大きくして、キャッチコピーのように取り入れると良いのでは。
- ・ 官民連携というと“民”の部分に町内会がフォーカスされることが多いが、民間企業や学校なども含めた、多様な7万人の人々が“みんな”というワードを使って提言書の中で何か表現ができると良いのでは。
- ・ 参考として、福岡市では“一人一花運動”に取り組み成功を収めているが、恵庭市でも同じことをやる必要があるというわけではなく、一人単位でも実現できる具体性のある取り組みを推進することで、人口7万人の7万通りの多様な具体性を少しずつ集約した時に、新しい公園管理が見えてくるのでは。

【椎野委員長】

- ・ (P.3) “施設の集合”という表現はイメージしにくいのでわかりやすい表現に変更しては。
- ・ (P.5) 提言書の中の公園数（168公園や105公園など）にばらつきがある。対象とする公園の抽出条件の注釈を記載する等、誤解のないように表記されたい。
- ・ (P.10,11) P.10では“木陰”、P.11では“緑陰”という表現としているが、一般的には“木陰”という表現の方が親しみやすいと思うので統一しては。
- ・ (P.15) “苦情の多寡”という表現については「問題が多い」という側面と「関心が高い」という側面がある。市としてどう捉えどう使うかという観点で今一度ご検討いただきたい。
- ・ (P.19およびP.21) 資料20と資料22の数字のフォントが違う。
- ・ (P.25) 資料23の番号が重複。資料24に修正。

【小磯副委員長】

- ・この提言書の持つ意味として、公園管理者が持つ問題意識がきっかけになるのも大切なことだと思うが、R6.3に開催された恵庭市公園のあり方シンポジウムにおいて、“いかに恵庭の公園の価値を高めるか”が重要なテーマとなっていたことを踏まえ、“公園の価値を高める”ための提言書として位置づけることで、さらに前向きな取組みに繋げるきっかけになると考える。その点を再認識して提言書に反映してもらえると良いのでは。
- ・現在、恵庭市の総合計画策定のお手伝いをしているが、恵庭市は新たに“文化創造都市”という発信を進めている。これはある種の挑戦であり、その背景には、北広島市のエスコンフィールド、千歳市のラピダスなど、大きな外発的な動きの中で、恵庭市は足元にある様々な資源を、改めて地域の資源として再認識して、その価値を高めて恵庭の発展に繋げていくといった狙いがある。恵庭市の公園は数も多く、多種多様であり、恵庭の公園が持つ魅力と価値を再発見して活用していくという視点を提言書の中に盛り込んでいただければ。
- ・数年前に恵庭の経済産業構造を分析したが、恵庭は豊かな都市である反面、自給率の低さや、サービス部門の弱さ（訪問者の消費）が問題として挙げられる。
- ・訪問交流の拡大および地域の経済力向上を目指す上でも、訪問者（市外の方）の目線で恵庭の公園の魅力を高めるような視点が重要。
- ・カリンバ自然公園のような公園が持つ潜在的な魅力を引き出すことで、公園の価値を高めることに繋がる。
- ・平井委員の発言にもあったが、恵庭の公園の特徴などを恵庭市外あるいは道外の人を読んでもわかりやすい提言書を作るといった視点は大切だと考える。
- ・黒崎委員の発言にもあったように、この提言書の先の展開をイメージして仕上げほしい。

<<事務局説明>>

○R8.7に予定しているシンポジウムについて、事務局で構成案を作成。

※詳細は「資料3 シンポジウム (R8.7) について」を参照

○基調講演については、公益財団法人 公園財団 町田 誠 氏にご登壇いただく。

<<委員より質問・意見>>

【平井委員】

- ・当日会場で”恵庭市公式LINEを活用した通報”や”生成AIによる公園のお困りごと回答“などの体験ブースのようなものがあると良いのでは。
- ・”託児あり”で準備していただいているようだが、小さな子ども連れの方だと、最後までシンポジウムに参加できない場合もあるので、例えば”第1部だけ傍聴して、体験ブースを見学して帰る”といったようなことができると、シンポジウム自体が堅くなりすぎず、より多くの人にご参加いただけるのでは。

【富永委員】

- ・参加者が講演や発表を聞くだけでは、なかなかわかりにくい部分も多いと思うので、ポスターセッションのような形で伝える方法を取り入れても良いのでは。
- ・町田さんにご講演いただく内容について、町田さんは柔軟に対応していただける方なので、提言書が出来上がった段階でご一読いただき、その内容を踏まえて講演の内容を擦り合わせるのが良いと思う。
- ・事務局案では、シンポジウムの時間は2時間程度で構成されているが、あと30~40分ほど時間を延ばして、これまで取組みに協力・参加してくれた市民からの発表（例：ふるさと公園）などがあると、今回作成した提言書に対して、今後市民がどのように関わっていけば良いのか等、きっかけづくりの場にできるのでは。（全体の時間を長くし過ぎると参加しにくくなる可能性もあるので要検討）

【椎野委員長】

- ・町田氏の講演内容について、あさひ公園の取組みや生成AIによる公園のお困りごと回答、その他の特徴的な取組みの、プロセスや成果、住民の評価等を事前に町田氏にお話しておくことで、全国の類似事例などをご紹介いただけることもあるかと思う。
- ・上記の特徴的な取組みについては、内容を簡単にご紹介いただくパンフレットなどがあっても良いのでは。

4.今後のスケジュールについて

14:55~15:00

<<事務局説明>>

- R8.2下旬～R8.3月上旬、次回の委員会（第7回）を開催予定。提言書の内容を確定したい。
- R8.3月中に、恵庭市長に対して、提言書の提出を予定。
- R8.7.11(土)、シンポジウムの開催を予定。

<<委員より質問・意見>>

- 特になし

Ⅲ. その他

- 特になし

Ⅳ. 閉会

15:00